

『オメガバース 集団強制妊娠～神龍のツガイが汚されて～』

著：黒兎

ill：いけや

1.

「くっ……はぁ……」

力ない体に覆い被さっていた男が、醜い愉悦に歪んだ顔で荒い息をつくのを、湊斗（みなと）はどこか冷めた思いで聞いていた。

無理やりに男の楔に繋がれている体の奥は、燃えるように熱い。汗ばんだ肌から、甘い蜜のような芳香が立ち上った。

異性、同性にかかわらず、人の欲望を掻き立ててやまないΩのフェロモン——自分の体が人の理性を狂わせ、獣に貶めるものなのだと、幼い湊斗が思い知らされたのは、いつだっただろうか。それほど長い時を生きてきたわけでもないのに、もうずいぶん昔のことのような気がする。

十歳になるかならず、幼いと言ってもいいほど、まだほんの子供の頃だった。

人が成長する過程で、βと言われる一般人たちと異なり、Ωには三ヶ月ごとに獣のような発情期が訪れるようになる。湊斗はその発情期の発現が、ほかのΩたちよりも少しだけ早かった。

ひとよりも早く自分の運命を体に刻み込まれ、ひとよりも早く大人にならなければならなかった。

そのうえ……。

「おい、早く替われよっ！」

湊斗の白いほっそりとした手を掴んで、強引に自分のペニスを扱かせていた別の男が、果てたばかりの仲間に苛立ったように催促する。

男のものはすっかり勃ち上がって、凶暴な筋をうねらせながら、先端から滴る雫で湊斗の指を汚している。

しかし手淫だけでは物足りない、男の血走った目は、仲間たちに犯され続けて、血と精液に塗れた湊斗の後孔を焦がれるように凝視した。

「待てよ。このままもう一回イかせろって……」

「ふざけんなっ、おまえ、さっきから三度も中出ししてんじゃねーか。今度は俺の番だ」

激昂して仲間に掴みかかった男は、長身の相手を力任せに引き剥がして、焦ったように湊斗の華奢な膝を抱えて、汚れきってもう力も入らない両脚の間に入ってくる。

勃起したペニスが、息つく暇もなく湊斗の後孔を無造作に貫いた。

「くっ……ふう——っ、あぁっ！」

引き攣った吐息を洩らす湊斗に見向きもせず、男は身勝手に繋がった腰を蠢かせ、夢中で快樂を追い始める。

「あぁっ、すげ——っ……。やっぱり、こいつ、いままで犯ったΩたちより、もっと、ずっといい。……あの噂、本当だったんだな」

「『街外れの《黒い塔》には、特別なΩが飼われている』——か。特別ってのは、やっぱりコレだったわ

けか」

さっきから湊斗の唇に自分の太くて長いものをねじ込んで、柔らかな口腔の感触を楽しんでいた男が、ニヤニヤと好色に笑いながら相づちを打った。

「 Ω なんて、《ここ》で男や女を楽しませるしか能のない連中が、エリートの α と番（つがい）になれるだけで、シティの上流階級と同じ贅沢な生活をしてやがる。俺たちが今まで襲ってきたのも、番がいなくてスラムに流れてきた最下層の Ω くらいだったが……」

「くふっ……！ ハアハア……ッ」

憎悪を滾らせた男に後孔の奥深くを乱暴に突かれて、湊斗は無抵抗のまま苦しげな息を零した。

男は、苦痛と快楽に鬨められた湊斗の清楚な美貌を面白そうに見下ろして、いっそう手荒く律動を刻む。

「 α の番ってのはみんな、こんなにいい匂いのフェロモンを垂れ流して、こんなに気持ちいい尻や唇をしてやがるのかな？」

「さあな。こいつは《特別》って噂だが……」

作品の詳細や最新情報はダリア公式サイト「ダリアカフェ」をご覧ください。

ダリア公式サイト「ダリアカフェ」

<http://www.fwinc.jp/daria/>